

第54回 環境安全委員会 資料1

東京PCB処理事業所 2025年度操業及び設備保全の実績と 今後の予定

2026年3月25日
中間貯蔵・環境安全事業株式会社
東京PCB処理事業所

目次

0. 2025年度の処理状況及び今後の処理見通し(概要)	・・・	3
1. 2025年度の処理状況	・・・	4
2. 操業開始からの処理実績	・・・	8
3. PCB廃棄物の搬入・搬出・処理	・・・	13
4. 操業中の排出源モニタリング及び周辺環境モニタリング	・・・	17
5. 作業従事者の安全対策への取り組み状況	・・・	23
6. ヒヤリハット活動(HHK)の状況と対応	・・・	25
7. 教育・訓練等の実施状況	・・・	28
8. 施設見学の状況	・・・	33
9. 設備保全の実施状況及び予定	・・・	34

0.2025年度の処理状況及び今後の処理見通し(概要)

事業終了準備期間の末日(2026年3月末)をもってPCB処理が終了。

東京及び北海道事業エリアで保管されている高濃度 PCB 廃棄物については、PCB廃棄物処理基本計画に基づき、2025年4月1日以降、「事業終了準備期間」を活用し処理を継続しているが、

2025年10月15日をもってJESCOへの登録の受け付けを終了

2025年10月31日までに処理委託契約を締結した

2025年12月12日に最終搬入完了した

■変圧器の処理対象及び処理状況

- ・処理対象量 2台
- ・処理実績 2台 (処理終了)

■コンデンサーの処理

- ・処理対象量 94台
- ・処理実績 94台 (処理終了)


■廃PCB油の処理 (分析サンプルのみ)

- ・処理対象量 0.58kg
- ・処理実績 0.58kg (処理終了)

1. 2025年度の処理状況（水熱設備）

定期点検後、7月4日よりNo1系 1 基運転で安定操業中

表 水熱分解設備の稼働状況

設備等		2024年度 累計	2025年度												累計	年度計画*8	計画比%				
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月							
水熱設備 稼働日数 (日)	平均	107														106	105	101			
	1号機	204	*1		定期点検 5/12-6/16	*2													212	210	101
	2号機*3	10														0	0	—			
	3号機*4	0														0	0	—			
受入物	変圧器	台数	4	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	2	100			
		重量 kg	1743	0	0	0	0	2,520	0	577	0	0	0	0	0	0	3,097	3,097	100		
	現地抜油 kg*5	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	—			
	コンデンサー	台数	232	0	0	0	1	16	0	23	0	54	0	0	0	94	94	100			
		重量 kg	9,651	0	0	0	149	462	0	1,149	0	1,379	0	0	0	3,140	3,140	100			
	廃PCB油	重量 kg*6	73	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	100			
	リン含有PCB油	重量 kg	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—			
廃粉末活性炭	重量 kg*7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—				
純PCB換算処理量(推定) kg		4,696	0	0	0	66	748	0	631	0	607	0	0	0	2,051	2,051	100				

*1: 4月2日に停止

*2: 7月4日に立ち上げ

*3: 2024年4月17日より停止し運転待機

*4: 2022年6月1日より休止

*5: 変圧器現地抜油の()の重量は、変圧器重量の内数

*6: 廃PCB油にはリン含有PCB油を含まず

*7: スラリー化処理した廃粉末活性炭の重量

*8: 2025年10月31日最終契約期限で確定した処理対象物の処理量

1. 2025年度の処理状況(変圧器の処理)

■ 変圧器の処理 2025年度の処理対象量 2台

2025年度2台を処理終了

(登録 2024年度2台、2025年度0台)

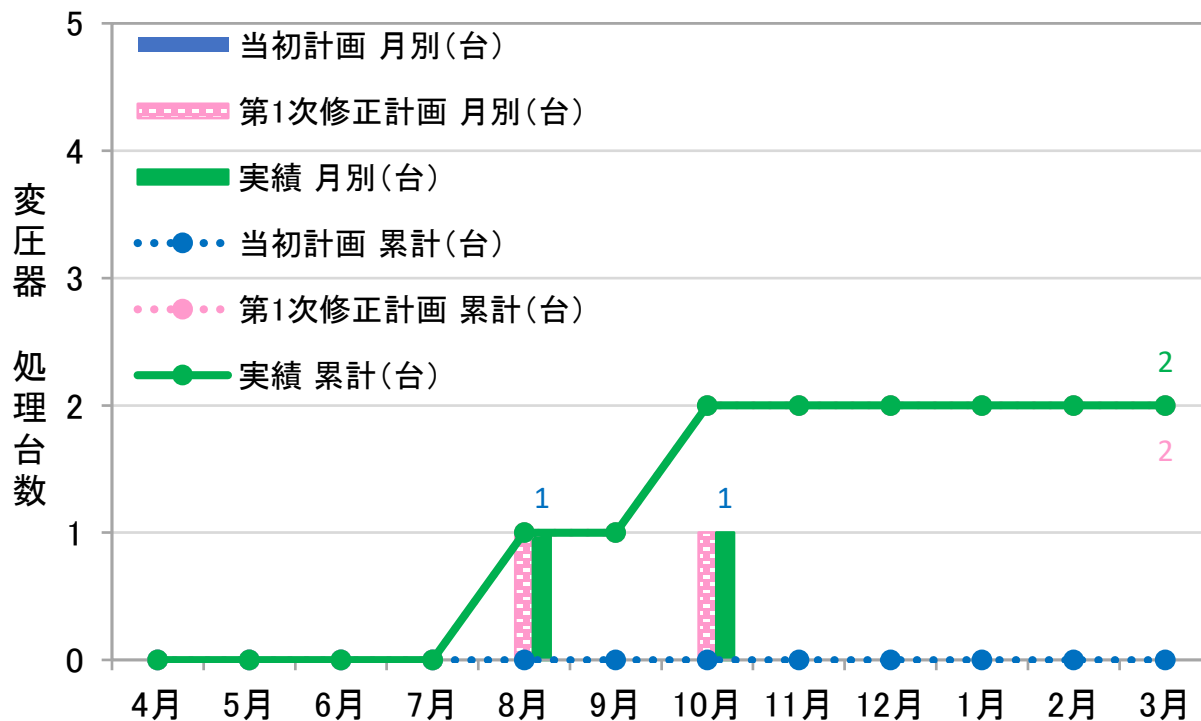


図 2025年度 変圧器の処理状況

1. 2025年度の処理状況(コンデンサーの処理)

■ コンデンサーの処理 2025年度の処理対象量 94台

2025年度94台を処理終了。

(登録 2024年度110台[未処理12台]、2025年度82台)

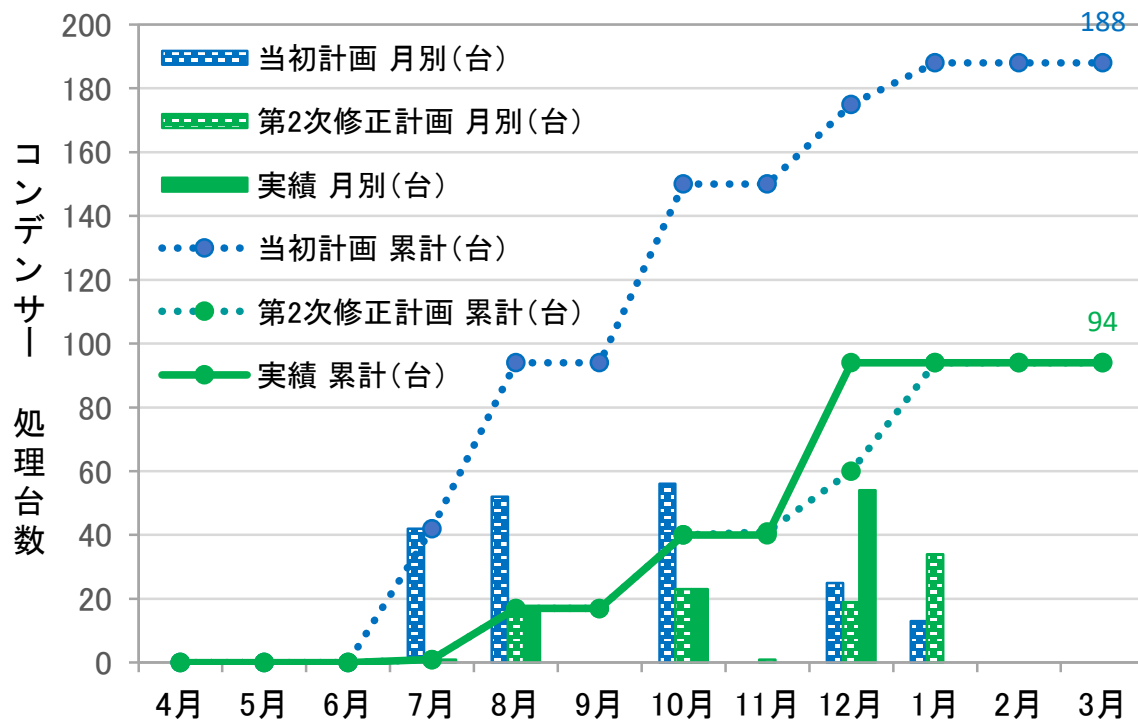


図 2025年度 コンデンサーの処理状況

1. 2025年度の処理状況(廃PCB油の処理)

■ 廃PCB油の処理 2025年度の処理対象量 0.58kg

2025年度は、ドラム缶、ペール缶等で保管した対象物はゼロであった。変圧器及びコンデンサーのPCB濃度確認のためにサンプリングしてPCB測定した分析サンプルのみであった。

2025年度：0.58kgを処理終了



分析サンプル(参考例)

2. 操業開始時からの処理実績(変圧器)

2025年度：2台の処理を実施（処理終了）

東京事業所での処理対象量 3,805台

（東京エリア 3,770台、北海道エリア 5台、豊田エリア 30台）

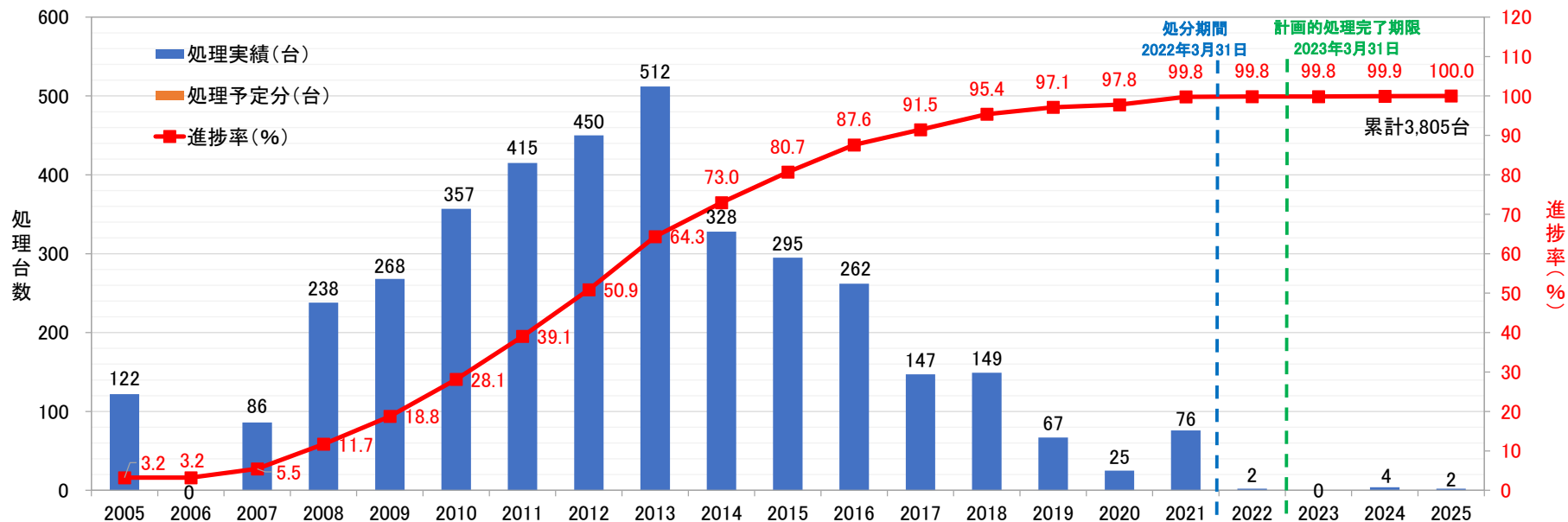


図 変圧器の操業開始時からの処理実績

2. 操業開始時からの処理実績(コンデンサー)

2025年度：94台の処理を実施（処理終了）
 東京事業所での処理対象量：85,724台
 北九州での処理：6,925台
 東京エリアの全体の対象量：92,649台

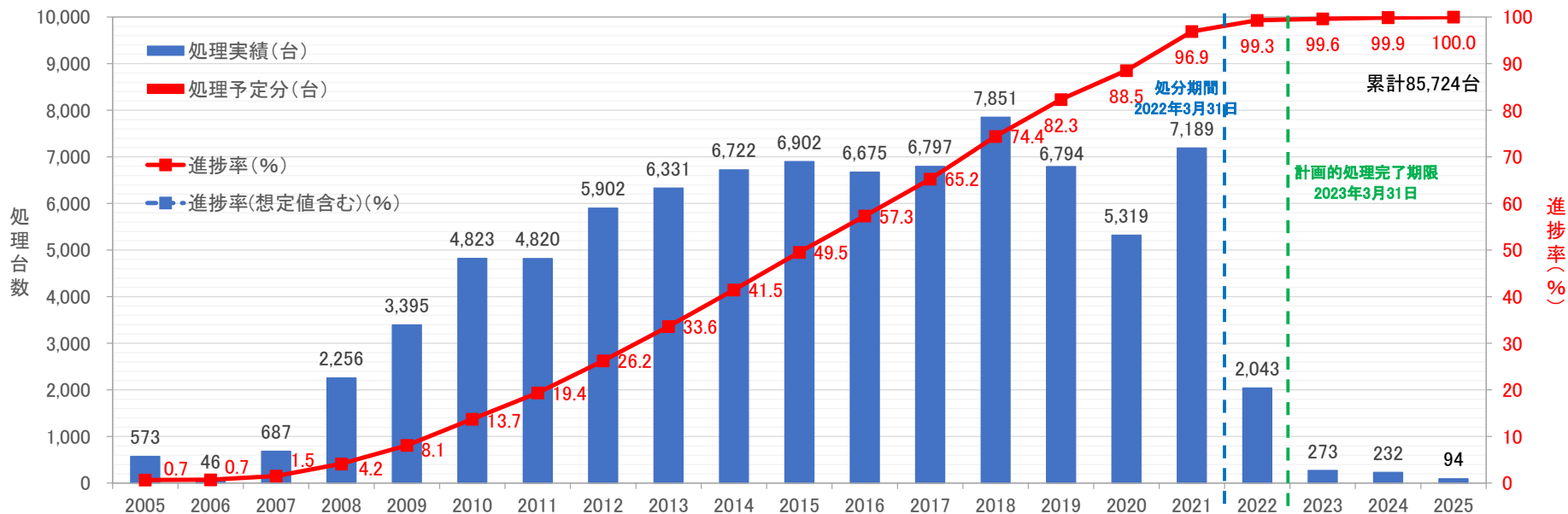


図 コンデンサーの操業開始時からの処理実績

2. 操業開始時からの処理実績(廃PCB油)

2025年度：0.58kgの処理を実施（処理終了）

東京事業所での処理対象量：366,682kg

廃PCB（リンを含まない）：84,868kg

リン含有PCB油：281,814kg

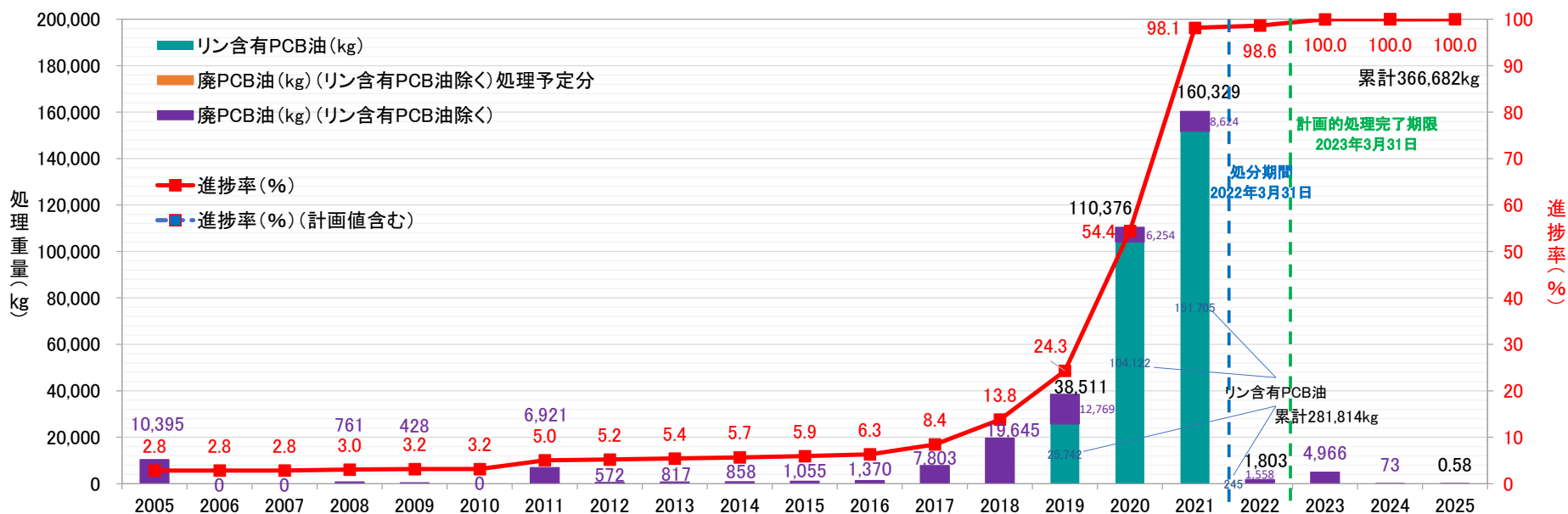


図 廃PCB油の操業開始時からの処理実績

2. 操業開始時からの処理実績 (廃粉末活性炭)

■ 廃粉末活性炭

2023年度にて全対象量の処理を終了。

北九州事業所及び大阪事業所の真空加熱装置（VTR）で発生する廃粉末活性炭について「PCB廃棄物処理基本計画」の改訂により東京事業所で処理することになり、水熱分解処理設備で処理するために、廃粉末活性炭スラリー化装置を設置して、2015年度に受入れを開始して、処理は2023年度に終了した。

廃粉末活性炭の処理実績

種別・区分		2023年度 までの 処理量	2024年度		累計	処理 対象量
			処理計画 (修正)	実績見通し		
廃粉末 活性炭	重量（t）	225	—	—	225	225
	[累積進捗率]	[100%]			[100 %]	
	北九州事業所	8	—	—	8	8
	大阪事業所	217	—	—	217	217

2. 操業開始からの処理実績 (まとめ)

表 操業開始時からの処理状況

処理対象物	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
変圧器(台)	122	0	86	238	268	357	415	450	512	328	295	262
コンデンサー(台)	573	46	687	2,256	3,395	4,823	4,820	5,902	6,331	6,722	6,902	6,675
廃PCB油(kg) ^{*3}	10,395	0	0	761	428	0	6,921	572	817	858	1,055	1,370
リン含有PCB油(kg)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
廃粉末活性炭(kg)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10,616	0

処理対象物	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度 ^{1月まで}	累計	対象数量 ^{*1}	進捗率(%)
変圧器(台)	147	149	67	25	76	2	0	4	2	3,805	3,805	100.0
コンデンサー(台)	6,797	7,851	6,794	5,319	7,189	2,043	273	232	94	85,724	※2 85,724	100.0
廃PCB油(kg) ^{*3}	7,803	19,645	12,769	6,254	8,624	1,558	4,966	73	1	84,870	84,870	100.0
リン含有PCB油(kg)	-	-	25,742	104,122	151,705	245	0	0	0	281,814	281,814	100.0
廃粉末活性炭(kg)	26,708	40,098	50,222	21,942	26,478	29,764	18,988	0	0	224,816	224,816	100.0

*1: 2025年度10月31最終契約期限で確定した処理対象物の処理量

*2: コンデンサーには、3kg未満の登録品(944台、今後は北海道事業所で安定器とともに処理)および北九州事業所で処理することとなった6,925台は含まない。

*3: 変圧器抜油以外の廃PCB油で、現地抜油後の現地解体前の洗浄油、リン含有PCB油は含めない。

※変圧器およびコンデンサーの試運転物の台数は各処理年度に含めた。

3. PCB廃棄物の搬入・搬出・処理

■ PCB廃棄物搬入車両の状況 (1)

表 2025年度のPCB廃棄物搬入車両の台数

月度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度累計
搬入車両台数	0	0	0	6	3	4	6	5	7	0	0	0	31

表 年度別のPCB廃棄物搬入車両の台数の推移

年度	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	累計
搬入車両台数	87	22	135	374	430	526	644	845	731	807	872	821	833	798	696	662	925	227	103	68	31	10,637
大阪事業所から (内数)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	0	13	20	21	11	14	15	9	-	-	110
北九州事業所から (内数)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3

3. PCB廃棄物の搬入・搬出・処理

■ PCB廃棄物搬入車両の状況 (2)

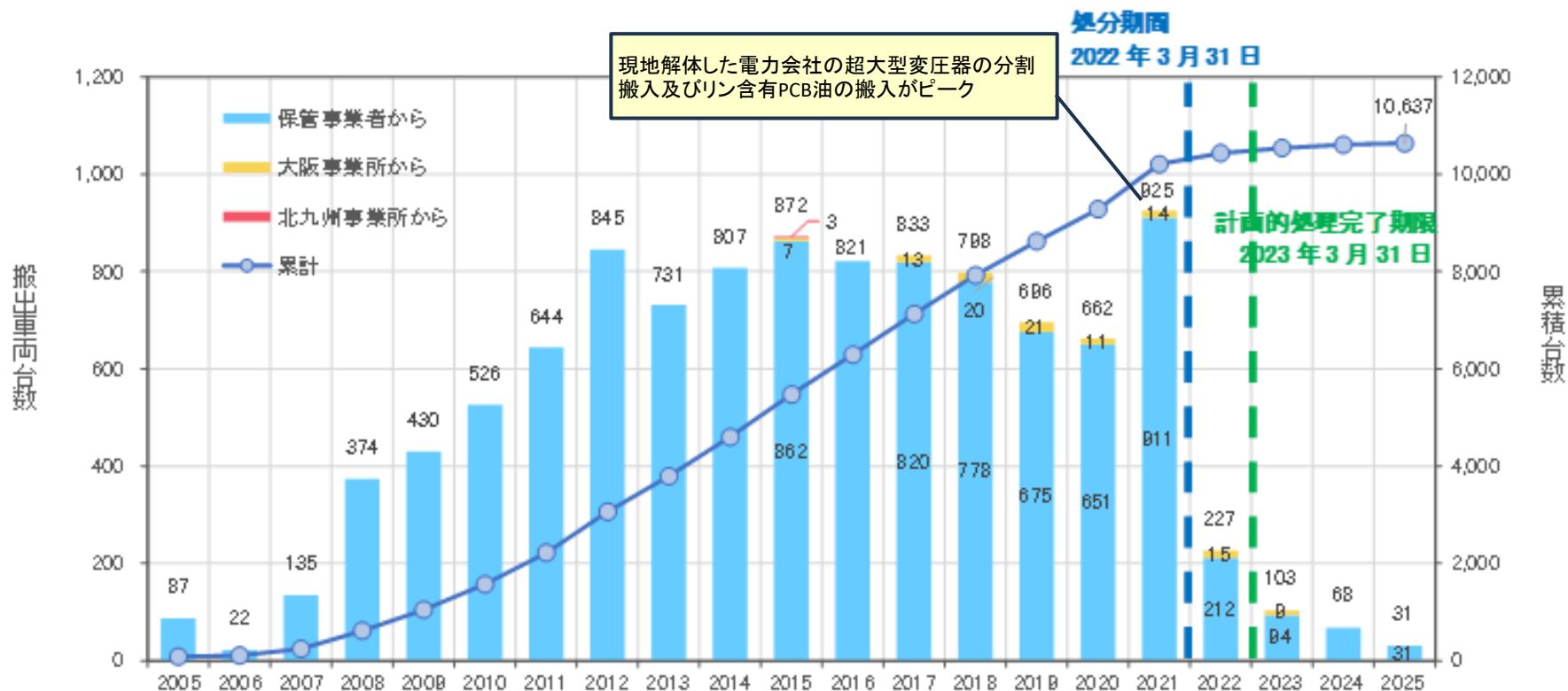


図 PCB廃棄物搬入車両の年度別台数の推移と累積台数

3. PCB廃棄物の搬入・搬出・処理

■二次廃棄物(高濃度汚染物)の搬出実績

- ・処理が困難な高濃度汚染物は北海道事業所で処理。
- ・2023年度で搬出は終了。2024年度の搬出実績はなし。
- ・下表にこれまでの搬出実績を示す。

※2025年度は、高濃度汚染物の発生は無い。

今後の本格的解体撤去においても高濃度汚染物の発生はしない。

高濃度廃棄物の北海道事業所への搬出実績(2023年度末で搬出終了)

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	累計
搬出重量 kg	1,510	5,834	4,222	3,747	20,172	40,575	16,467	92,560

3. PCB廃棄物の搬入・搬出・処理

■ 二次廃棄物（低濃度汚染物）の搬出実績と予定

東京都及び江東区との間の取り決めの運用の範囲内(低濃度汚染物：月6台以下、月30t以下)で対応中

表 二次廃棄物（低濃度汚染物）の搬出実績(1月迄)と予定

月度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	累計
	実績										予定		
トラック台数	0	3	0	4	2	2	2	1	2	5	2	1	24
二次廃棄物 (低濃度汚染物) 搬出重量*1 kg	0	1,722	0	2,216	4,805	1,469	2,851	5,605	2,110	8,927	2,501	720	32,926

※1 容器は含まない

表 二次廃棄物（低濃度汚染物）の年度別搬出実績

年度	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
二次廃棄物 (低濃度汚染物) 搬出重量*1 *2 t	0	0	0	0	0	0	0	0	216.6	363.1	354.9

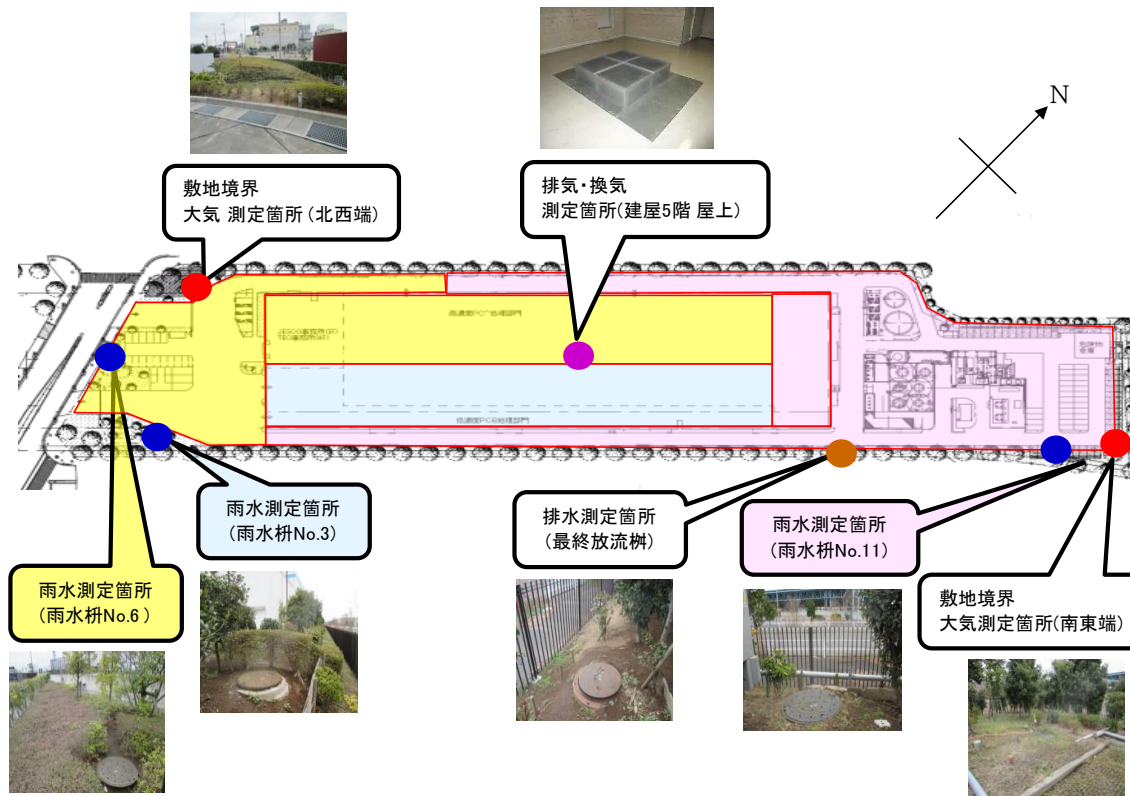
年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	累計
二次廃棄物 (低濃度汚染物) 搬出重量*1 *2 t	292.4	234.7	184.5	203.9	353.2	495.1	184.5	132.0	61.1	32.9	3,109.1

*1 2012年8月に廃棄物処理法に基づく無害化処理認定制度の対象に低濃度汚染物が加わったことから、2013年度より無害化処理認定施設への搬出を開始している。

*2 容器は含まない

4. 作業中の排出源モニタリング及び周辺環境モニタリング

- 施設からの排気・換気や排水及び敷地境界の大気や雨水については定期的に測定を行い、処理状況とともに、東京都及び江東区へ毎月報告している。

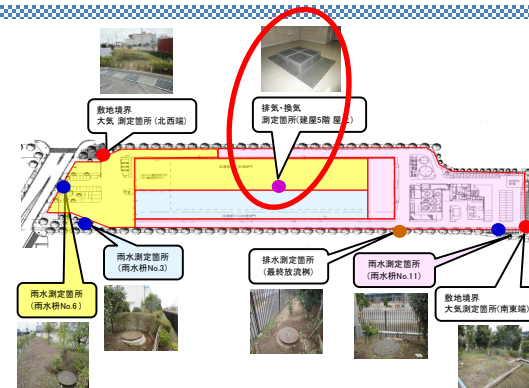


敷地境界大気質及び雨水排水枡の測定位置

4. 操業中の排出源モニタリング及び周辺環境モニタリング

■ 排出源モニタリング：排気・換気

すべて環境保全協定値を下回り、良好な状態を維持している。



排気・換気の測定結果(2025年度)

測定場所	測定項目	単位	測定結果		環境保全 評価基準	測定頻度
			2024年度	2025年度1月まで		
排気系統 1 (水熱分解処理・洗浄処理系)	PCB	mg/Nm ³	0.0005未満	0.0005未満～0.0006	0.01以下	月1回 *1
	DXNs	pg-TEQ/Nm ³	0.0013～0.13	0.0014～0.0036	100以下	年4回 *2
	IPA	ppm	0.1未満～0.3	0.1～0.3	40以下	年2回 *3
排気系統 2 (解体系)	PCB	mg/Nm ³	0.0005未満	0.0005未満～0.0009	0.01以下	月1回 *1
	DXNs	pg-TEQ/Nm ³	0.16～0.46	0.23～0.61	100以下	年4回 *2
換気系統 1 (水熱分解処理・洗浄処理系)	PCB	mg/Nm ³	0.00009～0.00015	0.00005未満～0.00014	0.001以下	月1回 *1
	DXNs	pg-TEQ/Nm ³	0.011～0.13	0.021～0.065	5以下	年4回 *2
換気系統 2 (解体系)	PCB	mg/Nm ³	0.00007～0.00011	0.00005未満～0.00010	0.001以下	月1回 *1
	DXNs	pg-TEQ/Nm ³	0.011～0.17	0.022～0.068	5以下	年4回 *2

*1 PCBは、協定の年4回に対し、自主測定も含め毎月実施している。

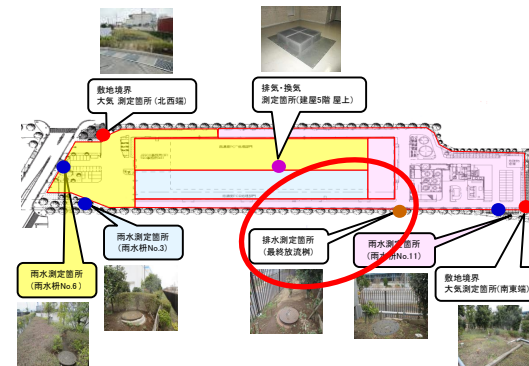
*2 DXNsは、協定の年2回に対し、自主測定も含め年4回(4月、7月、10月、1月)実施している。

*3 IPAは、協定で年2回(7月、1月)実施している。

4. 操業中の排出源モニタリング及び周辺環境モニタリング

■ 排出源モニタリング：排水

すべて環境保全協定値等を下回り、良好な状態を維持している。



排水の測定結果(2025年度)

測定項目	単位	測定結果		環境保全協定値等	測定頻度
		2024年度	2025年度1月まで		
PCB	mg/ℓ	0.0005未満	0.0005未満	0.0015以下	月1回 ^{*1}
pH	—	7.8～8.4	7.8～8.4	5を超え9未満	月1回 ^{*3}
n-Hex抽出物質	mg/ℓ	1未満	1未満	5以下	月1回 ^{*3}
BOD	mg/ℓ	0.5未満～3.5	0.5未満～11	600未満	月1回 ^{*3}
SS(浮遊物質)	mg/ℓ	1未満～4	1未満～7	600未満	月1回 ^{*3}
N(全窒素)	mg/ℓ	3.4～7.9	3.7～9.0	120未満	月1回 ^{*3}
DXNs	pg-TEQ/ℓ	0.038～0.76	1.1～1.4	5以下	年2回 ^{*2}
Zn(亜鉛)	mg/ℓ	0.05未満～0.16	0.05未満～0.12	2以下	月1回 ^{*3}
P(リン)	mg/ℓ	0.06未満～0.14	0.06未満～0.29	16未満	月1回 ^{*3}

*1 PCBは、協定で年4回に対し、自主測定を含め毎月実施している。

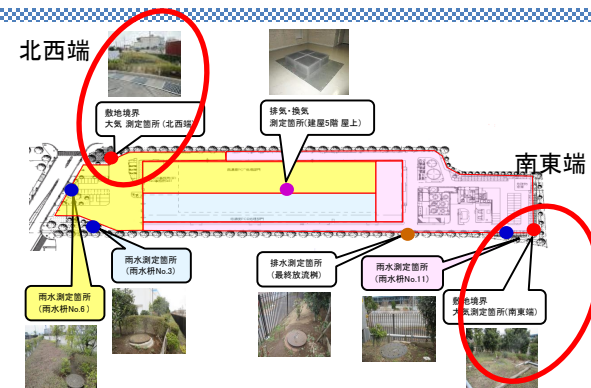
*2 DXNsは、協定で年2回(7月、1月)実施している。

*3 その他の測定項目は、自主測定として毎月実施している。

4. 操業中の排出源モニタリング及び周辺環境モニタリング

■ 周辺環境モニタリング：敷地境界の大気質 (PCB)

すべて定量下限未満で、管理指標としている暫定排出許容限界を下回っている。



敷地境界の大気測定結果 (PCB)

測定項目	測定箇所	測定日	測定結果	風向	参考指標*1	測定頻度*2
PCB mg/m ³	南東端	2025.4.9～16	0.00005未満	南南西	0.0005 以下	年4回
		2025.7.17～24	0.00005未満	南南西		
		2025.10.23～30	0.00005未満	北		
		2026.1.19～26	0.00005未満	北北西		
	北西端	2025.4.9～16	0.00005未満	南南西	0.0005 以下	年4回
		2025.7.17～24	0.00005未満	南南西		
		2025.10.23～30	0.00005未満	北		
		2026.1.19～26	0.00005未満	北北西		

*1 参考指標は環境庁大気保全局長通達(昭和47年環大気141号)に基づく。

*2 環境保全協定書における測定頻度は年1回であるが、現在は自主測定として年4回実施している。

4. 操業中の排出源モニタリング及び周辺環境モニタリング

■ 敷地境界の大気質（ダイオキシン類）

2025年度の測定結果を下表に示す。年平均値（春季～冬季の4季平均値）では、参考指標の環境基準値 $0.6\text{pg-TEQ}/\text{m}^3$ を下回っている。夏季測定（2025/7/17～7/24）が高値となった事象への対応として、東京PCB処理事業部会における審議を踏まえて、原因と考えられた近隣の施設に対応を求め、当該施設では速やかに総点検を実施し、漏洩の可能性がある箇所の補修を実施するなどの対応を進めている。当該施設における対応状況を把握しつつ、今後も連携しながらフォローしていく（以上、昨年12月15日環境安全委員会で報告済み）。今後の夏季測定では、当該施設が同時測定を実施し、双方で確認していく予定である。

表 敷地境界の大気測定結果（DXNs）

測定項目	測定箇所	測定日	測定結果	風向	年平均値	参考指標	測定頻度*1
DXNs $\text{pg-TEQ}/\text{m}^3$	南東端	2025.4.9～16	0.089	南南西	0.275	年平均 0.6以下	年4回
		2025.7.17～24	0.98	南南西			
		2025.10.23～30	0.018	北			
		2026.1.19～26	0.012	北北西			
	北西端	2025.4.9～16	0.16	南南西	0.423	年平均 0.6以下	年4回
		2025.7.17～24	1.5	南南西			
		2025.10.23～30	0.017	北			
		2026.1.19～26	0.015	北北西			

*1 環境保全協定書における測定頻度は年1回であるが、現在は自主測定として年4回実施している。

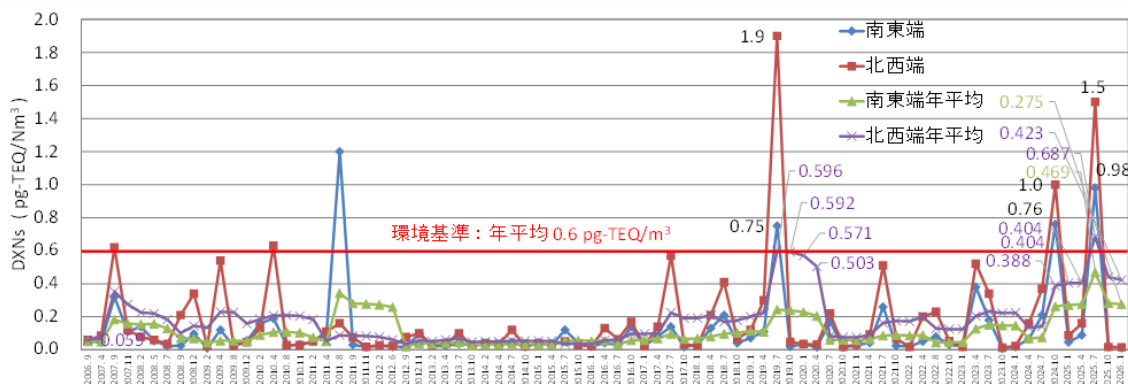
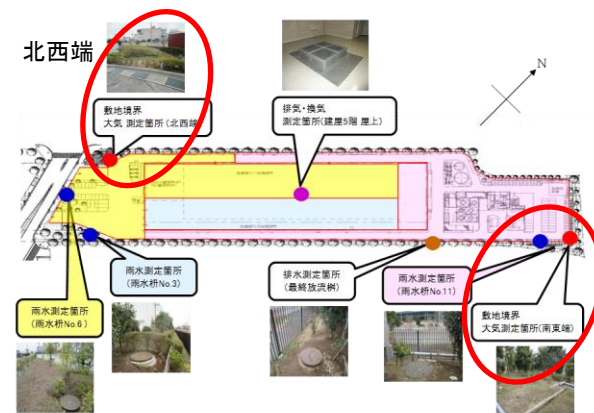


図 敷地境界の大気測定結果(DXNs)の推移



4. 排出源モニタリング及び敷地境界での測定結果

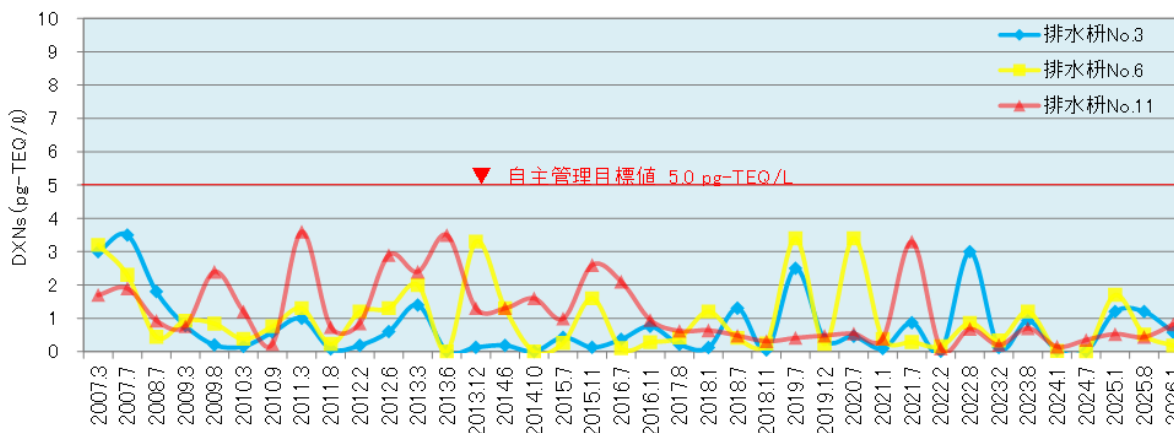
■ 雨水 (PCB、ダイオキシン類)

いずれも自主管理目標値(環境保全協定値)を下回っていた。
夏に濃度が高い傾向にあるため、引き続き注視していく。

雨水のPCBとダイオキシン類の測定結果(2025年度)

測定箇所	測定項目	単位	測定日	測定結果	参考指標	測定頻度 *1
No.3雨水枡	PCB	mg/ℓ	2025.8.28	0.0005未満	0.0015以下	年2回
			2026.1.26	0.0005未満		
	DXNs	pg-TEQ/ℓ	2025.8.28	1.2	5以下	
			2026.1.26	0.58		
No.6雨水枡	PCB	mg/ℓ	2025.8.28	0.0005未満	0.0015以下	年2回
			2026.1.26	0.0005未満		
	DXNs	pg-TEQ/ℓ	2025.8.28	0.51	5以下	
			2026.1.26	0.18		
No.11雨水枡	PCB	mg/ℓ	2025.8.28	0.0005未満	0.0015以下	年2回
			2026.1.26	0.0005未満		
	DXNs	pg-TEQ/ℓ	2025.8.28	0.44	5以下	
			2026.1.26	0.82		

*1 環境保全協定書における測定頻度は年1回であるが、自主測定を含め年2回実施している。



外部からの影響(夏場の風向に起因)のため、測定値が突出する場合がある。
対策としては、清掃等を実施している。

5. 作業従事者の安全対策への取り組み状況

■ 作業環境の維持・向上

JESCO及び運転会社は、協同でPDCAを回しながら、作業環境の維持・向上に取り組んでいる。

- ◆労働安全衛生法に基づく年2回（夏季、冬季）に、PCBを取り扱う作業場1箇所「除染室」を対象に作業環境測定を行っている。
- ◆法定測定結果は同法に基づく第1管理区分であり、良好な状態を維持している。

5. 作業従事者の安全対策への取り組み状況

■ 血液中PCB濃度の測定に基づく作業者の健康管理

- ◆ 作業従事者の血液中PCB濃度の基準値 25ng/g-血液 以下
⇒ 毎年8月の定期健診時に測定：超過者なし
- ◆ 東京事業所の自主管理目標値：10ng/g-血液以下
⇒ 全作業従事者が目標達成
- ◆ 過去の自主管理目標超過者への対応
自主管理目標値以下に低減するまで、PCB暴露がない作業への配置換え、作業制限等の個別フォローを実施

6. ヒヤリハット活動(HHK)の状況と対応

- 作業員個々の危険予知の感性向上のため、出来るだけ多くのヒヤリハット報告を呼びかけ、2025年度1月までに245件が提出され、活発な活動を継続している。
- 改善提案の提出を作業員に促すことで、作業安全の向上を図っており、処理量が減少しても更なる改善に継続して取り組んでいる。

6. ヒヤリハット活動(HHK)の状況と対応

表 ヒヤリハット活動の報告件数

項目	年度																					累計
	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	
リスクレベル	IV重大 (15点以上)	-	-	-	0	0	0	1	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	III問題あり (10~14点)	-	-	-	6	6	16	18	19	10	9	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	89
	II多少問題あり (6~9点)	-	-	-	54	77	99	122	188	144	138	225	168	265	238	135	34	11	9	4	1	2,207
	I殆ど問題なし (3~5点)	-	-	-	189	153	163	208	250	394	569	506	503	392	426	513	700	657	745	561	395	7,568
	合計	-	23	263	249	236	278	349	457	553	716	732	673	659	721	751	835	691	756	570	399	245
体験ヒヤリ	-	20	207	179	167	185	150	111	135	104	44	53	29	78	87	57	22	10	9	4	1	1,652
想定ヒヤリ	-	3	56	70	69	93	199	346	418	612	688	620	630	643	664	778	669	746	561	395	244	8,504

1) 2005年7月「ヒヤリハット報告・事故、災害防止要領を制定し、2006年度より運用開始。
2) 2006~2007年度はリスクレベル分類基準が現行と異なるので、総数のみ記載した。

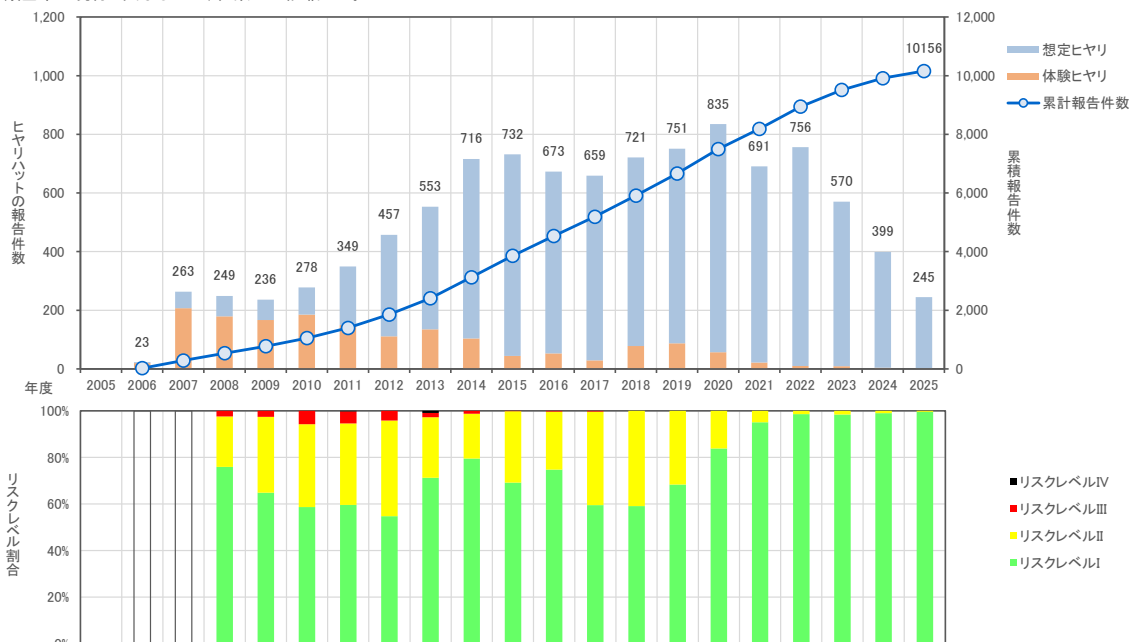


図 ヒヤリハット活動の報告件数

6. ヒヤリハット活動(HHK)の状況と対応

表 改善提案の件数

効果	年度																				累計	
	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024		2025
提案件数	-	-	-	183	263	118	132	116	108	76	67	88	79	71	57	74	62	66	50	51	51	1,712
提案件数(累積)	-	-	-	183	446	564	696	812	920	996	1,063	1,151	1,230	1,301	1,358	1,432	1,494	1,560	1,610	1,661	1,712	
安全性・信頼向上	-	-	-	140	210	87	86	77	75	60	61	79	59	45	37	39	26	33	29	11	7	1,161
作業性・業務効率化	-	-	-	144	209	78	97	74	77	42	57	49	47	50	32	30	22	36	24	10	13	1,091
コストダウン	-	-	-	11	21	8	9	8	9	5	1	1	0	2	1	4	0	10	0	2	13	105
作業環境改善	-	-	-	25	110	46	49	32	23	21	10	12	10	8	8	18	7	18	19	29	42	487
その他	-	-	-	5	11	4	2	2	1	2	2	6	3	2	2	8	27	20	3	8	9	117
合計	-	-	-	325	561	223	243	193	185	130	131	147	119	107	80	99	82	117	75	60	84	2,961

1) 効果区分は複数該当するものもあるため、合計は提案件数を超過している。
 2) 2008年1月「改善提案実施要領」を制定し、2008年度より運用開始。

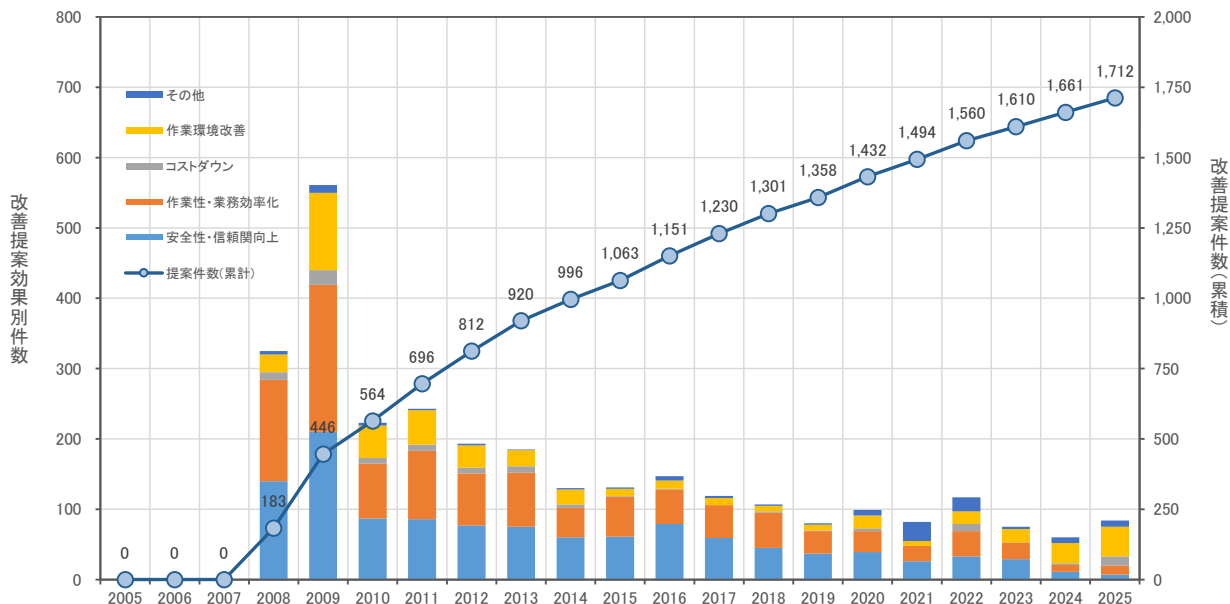


図 改善提案効果別の件数と改善提案の累積件数

7. 教育・訓練等の実施状況

■ 安全教育・訓練の実施状況

- ◆ 全員が受講する教育訓練・研修の他、職種、経験、職長、担当者等に応じた研修カリキュラムにより、年間を通じて計画的に教育訓練を行っている。
- ◆ 2025年度1月までに実施した安全教育・訓練は58件で、延べ1,880名が受講した。また、定期点検期間を活用して、安全衛生関連の特別教育等を実施した。



放水訓練(10/21)

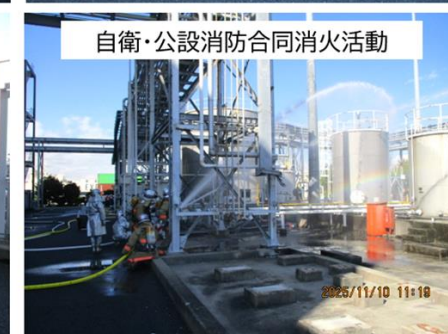


夜間休日緊急時対応訓練(A直、1/20)

7. 教育・訓練等の実施状況

◆ 総合防災訓練

- 毎年、深川消防署と連携して、総合防災訓練を実施。
- 11月10日に、江東区ご視察の下で実施。
- 地震発生・漏洩・火災を想定し、避難、自衛防災体制による初期消火、深川消防署の消火活動支援を実地訓練。

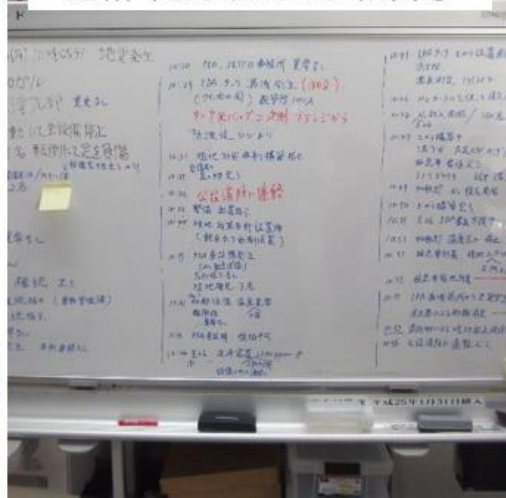


7. 教育・訓練等の実施状況

ドローン等による現地映像
(中央制御室)



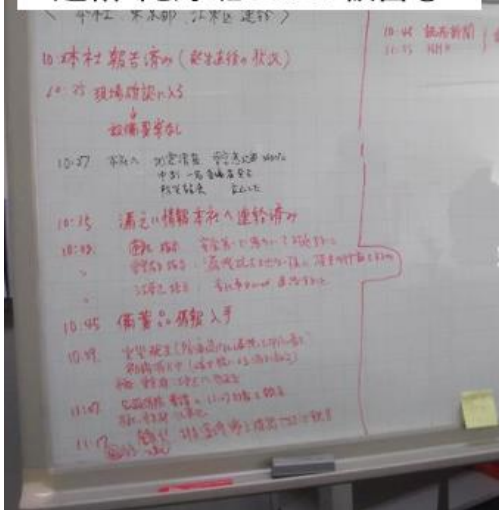
連絡・記録班による板書①



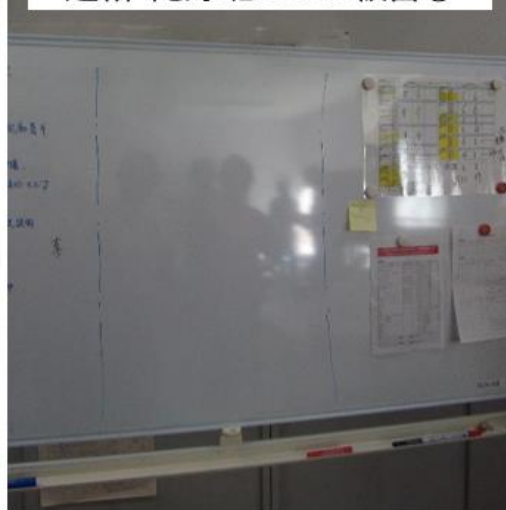
訓練後の講評
深川消防署有明分署



連絡・記録班による板書②



連絡・記録班による板書③



訓練後の講評
江東区役所



7. 教育・訓練等の実施状況

◆ 緊急時通報訓練

- 夜間・休祭日の運転会社体制時（JESCO不在）における緊急事態発生を想定した、JESCO社員及び運転会社上長への情報連絡訓練
- 計画の通りに、年3回(4月15日、9月16日、12月15日) 実施した。

受信者		受信時間	受信者からの返信メールを受信した時間									
当直長	受信											
	発信	19:00										
加納 運転管理課長 (不在時は齋藤(孝)課代)	受信	18:59	→中継から									
	発信	19:04	→所長に連絡									
安全対策課 山本課長	受信	19:11	田中所長	関野所長	八十島副所長	山本課長						
	発信	19:19	19:13	19:13	受信せず	19:16						
電話連絡:												
安全対策課 山本課長	受信	19:16	加納	中村(俊)	齋藤(孝)	齋藤(寛)	藤田	渡辺(謙)	青字(福原)	藤田	渡辺(謙)	
	発信	19:19	21:11	19:40	19:24	19:52	19:30	19:54	19:21	19:21		
安全対策課 課代 渡辺(謙)	受信	19:19	小林	高木	相模	伊藤						
	発信	19:26	19:27	20:25	19:49							
総務課 鹿田課長	受信	19:19	北村	高浜	森田	岩本	江戸	吉谷				
	発信	19:30	4:49	21:05	20:32	19:43	19:36	22:04				
解体・補充PT(工事) 中村(俊)	受信	19:19	船本	樋口	中村(博)	高山	出口					
	発信	19:21	19:41	19:42	19:43	19:45	21:02					
解体・補充PT(廃棄物・分析) 加納課長	受信	21:11	市川	遠藤	浅野	中村(俊)	徳					
	発信	19:11	19:17	21:41	19:48	19:40	19:13					
運転管理課(保安) 齋藤(孝)	受信	19:24	藤崎	藤合	関地(正典)	藤間	吉田					
	発信	19:25	返信なし	22:27	20:03	返信なし	19:54					
運転管理課(廃棄) 齋藤(寛)	受信	19:52	笠原	上村								
	発信	19:56	19:58	20:18								
営業課 福田課長	受信	19:54	酒添	関地(俊)								
	発信	20:08	連絡取りず	21:10								
T E O 藤田所長	受信	19:04	縄田	川島	石川	坂手	野崎	山田	伊藤	三浦	小形	
	発信	19:09	20:10	19:10	19:37	19:11	19:11	19:10	19:10	19:12	19:10	
	～30分以内		～60分以内		60分以上							
	人数	割合	人数	割合	人数	割合						
JESCO	20	50.0%	4	10.0%	16	40.0%						
TEO	9	90.0%	0	0.0%	1	10.0%						
Total	29	58.0%	4	8.0%	17	34.0%						

通報訓練結果の一例

7. 教育・訓練等の実施状況

◆夜間休日緊急時対応訓練

- 交替勤務(4直体制)直ごとで防災訓練を年4回計画し、2025年度は12月22日、1月20日、2月6日及び2月20日に実施した。

実施日	訓練計画	主な訓練結果
2025年 12月22日(B直) 2026年 1月20日(A直) 2月6日(C直) 2月20日(D直)	○訓練目的 1 夜間、休日における防災体制および初動活動の理解と検証 2 初動活動手順書の検証(覚知情報の確認&判定、門警備対応、公設消防対応) 3 粉末消火設備の使用手順書の検証 ○訓練想定 1 夜間・休日に地震発生、震源地:東京湾北部、震度:5強200ガル(装置は地震計連動で停止) 2 地震により1F解体前洗浄室、解体前洗浄溶剤供給タンク出口自動弁よりNS100が漏洩(約100ℓ) 3 1F解体エリアで火災発生→粉末消火設備を使用 ○訓練内容 1 訓練シナリオによる。	1 実施した各直において、本部長(当直長)を中心にスムーズに訓練を進めることができた。 2 シナリオを見ずに訓練を進めることができていた。また、人員が減る中、各人がそれぞれ考え、場面に応じた行動をとることができるようになってきた。 3 実施した各直の訓練後の反省会においては、細かな気付き、各立場からの意見が活発に出されていた。反省点は今後の訓練に反映していく。

夜間休日緊急時対応訓練の一例

8. 施設見学の状況

◆ 2025年度1月までに、7件49名の見学者

表 施設の見学件数と見学者数の月別実績

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 ¹⁾
件数(件)	0	0	0	2	0	1	2	1	0	1	-	-	7
見学者数(名)	0	0	0	22	0	3	10	12	0	2	-	-	49

1) 2025年1月末までの実績

表 施設の見学件数と見学者数の年度別実績

年度	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	累計 ¹⁾
件数(件)	65	85	130	143	147	114	69	90	92	69	68	90	78	44	36	0	4	13	6	10	7	1,360
見学者数(名)	1,048	1,310	1,938	1,669	1,578	1,292	596	823	1,235	665	861	813	816	540	513	0	13	142	120	108	49	16,129

1) 2025年1月末までの実績

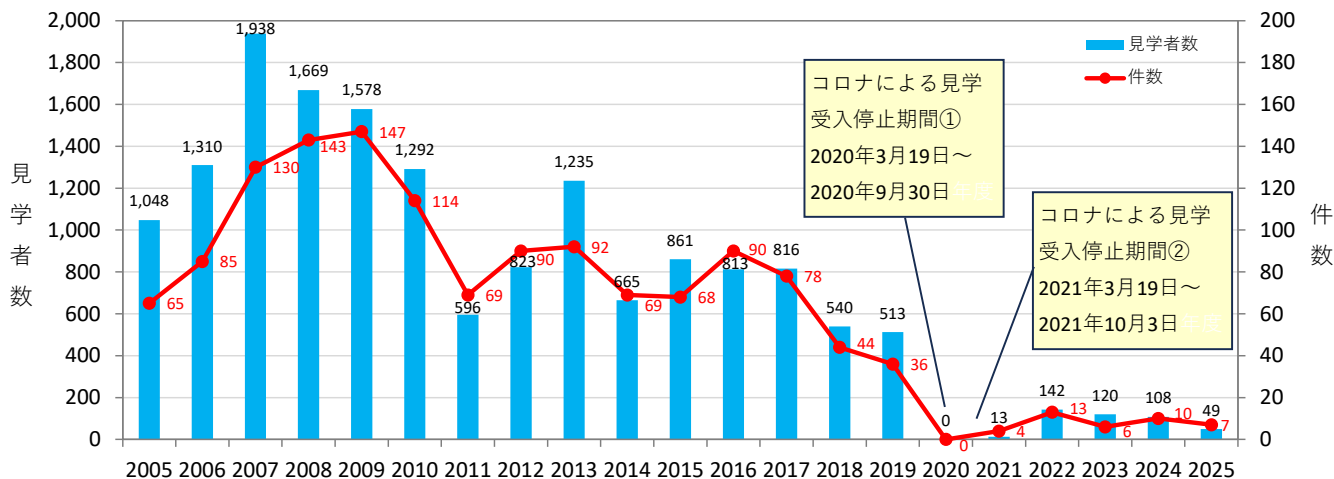


図 施設の見学件数と見学者数

9. 設備保全の実施状況及び予定

■ 2025年度の実施状況

「本格解体撤去工事完了までの施設の維持保全計画」に基づく、事業終了準備期間の2025年度の主な設備保全は、定期点検期間（2025年5月12日～6月16日）にて実施して完了した。

○加熱処理設備：従来の定期点検を定期点検中に実施し、特に問題なかった。

○洗浄処理設備：定期点検中に実施し完了した。洗浄設備の蒸留精製装置は、2025年度で運転停止する。

○水熱分解処理設備：反応器底部及び反応器管台、反応器から熱交換器出口連絡管の配管等の検査は、特に問題なかった。その他、自動弁5台、手動8台の分解点検整備及び手動弁各2台の交換を実施し、完了した。

○排水処理設備：定期点検中に実施し、特に問題なかった。

○換気空調：定期点検中に実施し、特に問題なかった。

○特高・高圧受変電設備：計画的な部品更新を行っており、2025年は8.5%の更新を実施して全体の91.5%を完了した。2026年度に8.5%の部品更新を計画して更新を完了する予定。